

9 しょうやまこうえん 城山公園

もとは三井総領家三井高棟の別荘地でした。高棟は昭和9年に「城山荘本館」を山頂に築き、大雄殿をはじめとして、国宝茶室「如庵」などがありました。現在は、県立公園となり、憩いの場となっています。



園にあった三井高
て建てられてい
模国府時代の遺
などを紹介・展示、
ています。

始(12月29日～

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道に宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。

慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に一里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。

さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめましょう。

東海道四百年の歩みを踏みしめる



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約260km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の“むかし”と“いま”が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。

なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

主要地方道

県道

有料道路

3 名所・史跡

トイレ

公園

P 駐車場

その他のポイント

東海道現代遊楽帖

観光案内所

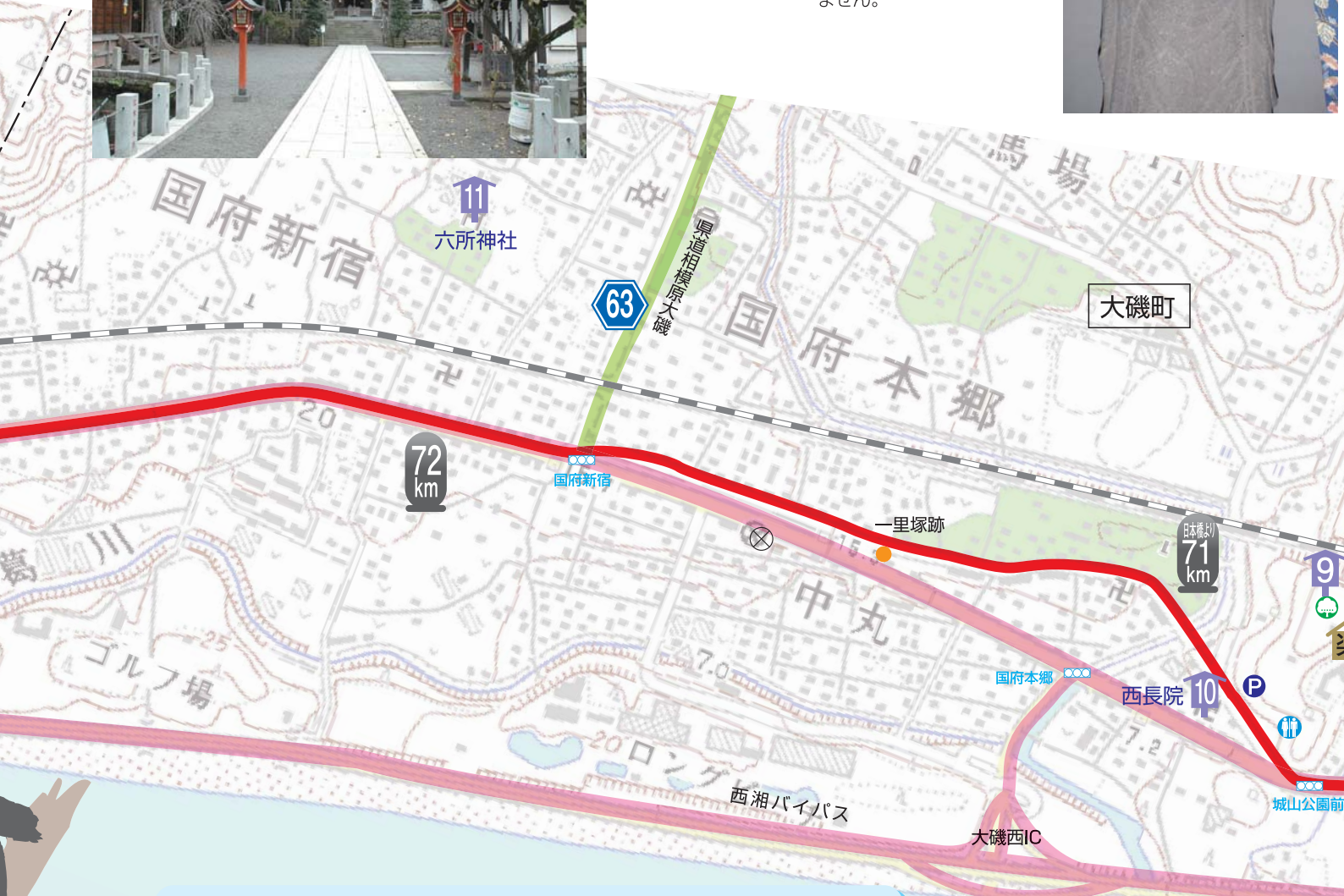
ろくしょ じんじや 六所神社

もとは石神台の地に置かれていましたが、大化改新後、現在地に移りました。その後、相模国府がこの地に移り、相模の六社の分霊が六所神社に祀られ、相模の総社となりました。



さいちやう いん 西長院

「身代わり地藏尊」を安置するため1689年(元禄2年)に建立され、昭和の初めに国道の拡幅工事により現在地へ移転しました。この身代わり地藏尊、信仰する者の危難を身代わりとなって救うと言われ、身体には刀傷のような痕が残っています。(大磯町指定重要文化財)※平時は公開していません。



悪天候時の通行規制について

台風などで高波が護岸を越えて押し寄せる「越波(えっぱ)」。平成19年には西湘バイパスで甚大な被害が出ました。横浜国道事務所では、安全のため早めの通行規制を行ったため、車や人への被害はありませんでした。

悪天候の際は、無理をせず安全運転を心がけるとともに、通行規制へのご協力をお願いします。



平成19年9月の台風9号による西湘バイパスの被災状況

東海道 現 遡 楽 帖

大磯町郷土資料館

郷土資料館は県立大磯城山公園の別荘「城山荘」をモチーフとしています。大磯で出土した土器や相模、大磯の農漁業や自然、民話など、また期間限定の企画展を開催しています。
開館時間: 9:00~16:30
休館日: 月曜日・毎月1日・年末年始(1月4日)

ガラスのうさぎ像

二宮駅南口にガラスのうさぎを抱いて静かにたたずむ乙女の像です。この像は、第二次世界大戦中、二宮の空襲で父を失った体験を綴った高木敏子さんの小説「ガラスのうさぎ」にちなんで建てられました。町民の平和への願いも込められています。



伊達時 彰徳碑

明治維新以降、二宮の発展と社会福祉の増進に尽くした伊達時を記念して建てられました。彼の功績は二宮駅の設置、大磯女子敬業学舎の開校、平塚盲学校初代校長など多岐にわたります。



二宮のイベント情報

- 川勾神社例大祭(二宮町内／10月第2日曜日)
川勾神社の神輿を担ぎ町内をまわった後、夕刻に海岸で浜降りを行います。
- 吾妻神社の縁結祭(吾妻神社／1月第3日曜日)
たくさんの出店が立ち並び、良縁を願う人々が山頂の本殿までお参りします。

※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者または町へご確認ください。

1:10,000
500m

1000m

大磯宿と小田原宿の距離が比較的に長いことからつくられた、間の宿です。
江戸方面から進むと急な下り坂、押切坂を事前に控え、かごかきの人々がここでごや馬を止め、ひと息入れたといわれています。坂道には「江戸より十八里」と記された一里塚跡が残っています。

間の宿二宮、
「梅沢の立場」と呼ばれ、
賑わった宿。



東海道 現代 建築帖

徳富蘇峰記念館

蘇峰あての手紙が約4万6000通
あります(閲覧可能)。また庭には
樹齢300年を越す梅の老木が約
90本あり、春には多くの花を咲か
せます。

開館日:月・水・金曜日

※梅の時期(2月)は土・日曜日も
開館

※特別開館日 年末年始及び8月
は第3・4週

開館時間:10:00~16:00



に崇敬



あづまじんじや 吾妻神社

この神社は日本武尊の妻、弟橘媛命が夫の
武運を祈り、海に身を投げ、その後、海辺に
流れ着いた櫛を吾妻山山頂に埋めた場所
だと伝えられています。また、役場横の階段
を登った山の頂上には公園があり、相模湾
を見下ろせて、眺めは格別です。



4 いちりづか あと
一里塚の跡

「江戸より十八里」の一里塚のあった箇所に、昭和57年、一里塚の跡の碑が築られました。



3 かわ じんじや
川勾神社

相模国の二の宮として、源頼朝をはじめ多くの武將に崇敬されました。

5 まつや ほんじんあと
松屋本陣跡

大磯宿と小田原宿との間(あい)の宿にあった松屋本陣は、将軍や大名、旗本、門跡などの休憩所として利用されました。



2 どうがくいん
等覚院

別名、藤巻寺と呼ばれ、薬師堂の前には町の天然記念物に指定されている古いフジの木があります。もとは吾妻神社の別当坊千手院にあったと伝えられる梵鐘は町指定の重要文化財です。

